

1. 事業の具体的内容について

(1) 自治体における取組

① 協議会について

1. 構成員

がん教育総合支援事業協議会委員 15人

(内訳)

県医師会1名、 がん拠点病院医師2名(緩和ケア・疫学研究)

がん患者会1名

県保健医療局1名、

大学准教授1名、

中学校校長1名、

高等学校校長1名、

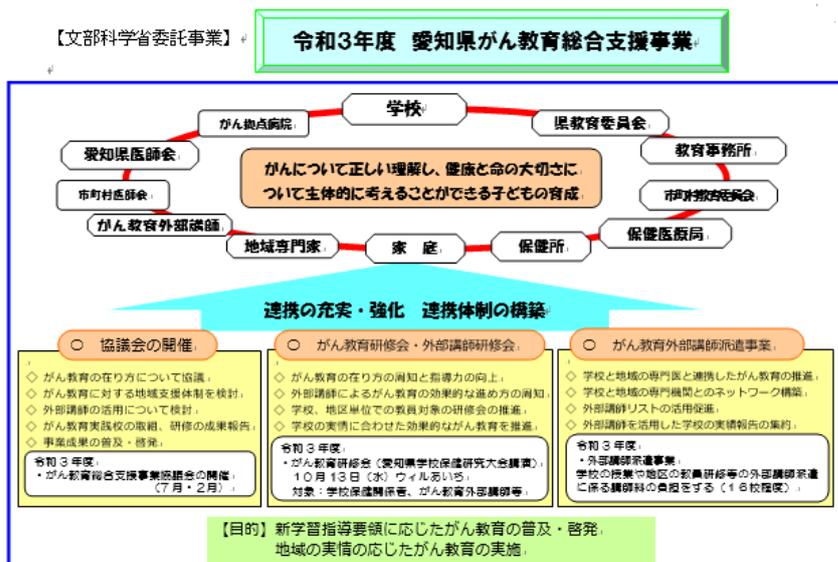
中学校養護教諭1名、

高等学校養護教諭1名、

小中学校PTA代表1名、

高等学校PTA代表1名

県教育委員会3名



2. 開催時期、検討内容

第1回協議会 令和3年7月6日(火)

- ・事業計画及びその内容等の説明
- ・県のがん教育の取組状況等の説明
- ・がん教育の推進に向けての意見交換

第2回協議会 令和4年2月8日(火) ※新型コロナウイルス感染症の影響により書面開催

- ・事業報告
- ・成果と課題、今後の予定について

② 教育委員会としての取組

ア がん教育研修会

がんについての正しい知識及び理解を深め、実践につながる機会をつくり、各学校でさらに具体的な取組につなげるため、教職員、医療関係者、がん教育外部講師を対象にした研修会を行った。

《日時》 令和3年10月13日(水)

《開催方法》 オンライン開催(YouTubeによるライブ配信及び11月12日までの録画配信)

※新型コロナウイルス感染症の影響により集合開催から変更

《講演》 「今とこれからを生きる君たちへ ～学びの本質にせまるがん教育～」

講師 埼玉医科大学総合医療センター

緩和医療科/呼吸器外科教授・緩和ケア推進室長 儀賀 理暁 氏

《参加者》 学校医 学校歯科医 学校薬剤師 P T A 代表 校長  
 教 頭 保健主事 養護教諭 学校保健関係者  
 がん教育外部講師 がん教育総合支援事業協議会委員

《YouTube 再生回数》 1 2 9 6 回

イ がん教育外部講師派遣事業

- ・学校や地域の実情に応じたがん教育の推進を図るため、学校での授業や講演、地域の教員研修等に申込みのあった学校（地区）にがん教育外部講師を派遣した。
- ・保健医療局の協力により作成した「外部講師リスト」を県内の公立学校に周知し、活用により、地域の専門医と学校間のネットワークの構築を目指した。

《派遣事業期間》 : 令和 3 年 7 月 9 日～令和 3 年 12 月まで

《派遣先》 : 10 学校（小学校 4 校、中学校 4 校、高等学校 2 校）  
 3 地区（教職員対象研修会）

ウ 研修や教材の周知、事業成果の普及・啓発

- ・文部科学省主催の研修会や教材、県保健医療局作成の中学生向け「がん教育リーフレット」を学校保健関係者等の研修で周知し活用促進を図った。
- ・外部講師派遣事業の取組内容を県教育委員会のウェブページや研修会等の機会に周知し、がん教育の先進的な取組について情報を提供し成果を共有した。今後も事業成果の普及に努めていく。

③ 保健部局や地域の専門機関等との連携

- ・毎年、県保健医療局から、がん診療連携拠点病院及びがん診療拠点病院に所属する医療従事者のうち、中学校、高等学校におけるがん教育の実施にご協力いただける方を対象にしたリストを提供していただいている。次年度の行事予定が立てやすいように 12 月にリストを学校に周知している。

《リスト掲載の外部講師：がん拠点病院を中心とした医療従事者 137 名 》

- ・県保健医療局主催の「県がん対策部会」の事務局として県教育委員会から参加し、愛知県のがん対策の中の、がん教育に関する事項について協議会構成員に対し説明している。

(2) モデル校における取組

実施校 実施日	実 施 事 項
A 小学校 10 月 28 日	テーマ「がんについて知り、今自分にできることを考えよう」（児童対象） 「学校におけるがん教育のあり方について」（教職員対象） 学校保健委員会に外部講師を招き、児童は「がんについて正しい知識を身につけ、生涯、健康な生活を送るために役立てる」をねらいに講演を聞き、教職員は「がん教育への理解を深め、指導につなげる」をねらいに研修及び協議を行った。 【参加人数：6年生児童 96 人、教職員 24 人、】
B 中学校 11 月 1 日	テーマ 「『がん』から考える私たちの生活」（オンライン） 保健体育科の授業後に学校保健委員会「『がん』から考える私たちの生活」を行い、外部講師の話から、「がん」を正しく理解し、生活習慣をよくすることでリスクを下げられることを学んだ。 【参加人数：全校生徒 323 人、教職員 20 人】
C 中学校 11 月 4 日	テーマ「がんについて考えよう」 保健講座のテーマに「がん」を取り上げ、がんについて正しく理解し、健康と命の大切さについて主体的に考えることができることをねらいとし、外部講師の講演を聞いた。 【参加人数：1 年生 73 人、教職員 5 人】

D 高等学校 11月11日	<p>テーマ「がんってなに？がんのことを正しく知ろう」（オンライン） 総合的な探究の時間（健康教育講座）で「がん教育を通して、がんについて正しく理解する」「自他の健康と命の大切さについて主体的に考え、行動できる生徒の育成」を目的とし、外部講師の講演を聞いた。 【参加人数：1・2年生 624人、教職員 36人】</p>
E 中学校 11月16日	<p>テーマ「がんと関わる方から話を聞き、これから自分ががんとどう向き合っていくか考える」 がんを身近なものとして捉え、予防のために自分はこれから何をすべきか、これからの生き方やがんとの向き合い方を考えるために学校保健委員会を開催し、外部講師（がん経験者・医療従事者）からの話を聞いた。 【参加人数：2年生 69人、教職員 6人】</p>
F 高等学校 11月22日	<p>テーマ「がんについて考えよう」 生徒が自らの生活習慣を振り返り、生涯にわたって健康に過ごす意識を高め、がんとの共生社会の中で生きていくうえで必要な正しい知識を身に付けることをねらいとし、特別活動の時間に外部講師からの話しを聞いた。 【参加人数：1年生 25人、教職員 4人】</p>
G 小学校 12月2日	<p>テーマ「がんについて知ろう」 がんについて学ぶことにより、自他の健康と命の大切さに気付き、生活習慣を見直し、病気の予防や健康の維持増進についての意識向上と行動化を図ることをねらいとし、学校保健委員会外部講師から話を聞いた。 【参加人数：5・6年児童 61人、教職員 6人、保護者 4人、学校三師 3人】</p>
H 小学校 12月9日	<p>テーマ「望ましい生活習慣を身につけてがんを予防しよう」 がんについて体育科で学習した内容を再確認させ、生活習慣の見直しや命の大切さについて考えさせる機会とするため、保健講座を開催し、外部講師の話しを聞いた。 【参加人数：6年生 107人、教職員 7人】</p>
I 小学校 12月15日	<p>テーマ「がんについて知り、今自分にできることを考えよう」 総合的な学習の時間に、外部講師よりがんの基本知識、予防のための生活習慣、検診の大切さ、身近な人ががんになったとき等の話しを聞き、がんに対する理解と、今後の自分の行動を考える機会をもった。 【参加人数：5・6年生 31人、教職員 6人】</p>
J 中学校 12月16日	<p>テーマ「性感染症とその予防（子宮頸がん）」（保健体育科） 「精一杯『生きる』」（道徳科） 保健体育科で学んだ「がん教育」「性感染症」のまとめとして外部講師から専門知識や技能を学習し、学級担任による道徳科の授業の2時間を「命と性に向き合う時間」と設定して実施した。 【参加人数：3年生 126人、教職員 15人】</p>

(3) その他

外部講師を派遣した地区の教職員研修

実施時期	実施事項
K 地区 8月18日	<p>テーマ「学校におけるがん教育について」（オンライン） 学校におけるがん教育への理解を深め、実践につながる機会をつくるため、外部講師を招き、がん教育の授業の実践例を具体的に示していただきながら、研修を行った。 【参加人数：西三河管内小中学校 保健主事・養護教諭 124人】</p>

<p>L市 10月22日</p>	<p>テーマ「がん教育の推進と養護教諭の役割『学校でのがん教育の必要性や行う際の注意点』」 外部講師からどのように学校でがん教育を推進していくことが望ましいか、行う際の注意点等を学び、各学校での実践に向けて、養護教諭としての働きかけや地区として取組を考えるため、研修を行った。 【参加人数：市内小中学校養護教諭 68人、校長・指導主事 4人】</p>
<p>M市 11月5日</p>	<p>テーマ「子どもたちと一緒に考えるがん教育にむけて」 保健主事を中心に、がん教育について各学校でリーダーシップをとってもらう指導者の育成の機会とした。外部講師の講演を聞き、事例をもとに、学校でがん教育を行う際の配慮や注意すべき点について協議した。 【参加人数：市内保健主事 32人】</p>

## 2. 事業の達成度について

### (1) がん教育研修会

《成 果》 YouTube 再生回数 1296回

- ・新型コロナウイルス感染症の影響により、急遽、Web開催に変更したが、集合開催では参加することが難しかった方にも視聴していただくことができた。また録画配信により、繰り返し見ていただくことができた。また、今回は愛知県学校保健研究大会の講演と本研修を兼ねて行ったため、学校医等の学校保健関係者にも参加していただくことができた。
- ・がん教育に造詣が深く、がん教育外部講師の経験が豊富な医師から、これまでの体験を交えた話を伺うことより、学校関係者、外部講師、保護者等それぞれの立場で、がん教育を行う意義や学校でのがん教育の在り方等を学ぶ機会となった。

(参加者アンケートより)

- ・がん教育を行う際の配慮事項について見解を聞くことができた。医療者が講師になる授業でも命の授業にすることができるとうわかった。
- ・知識だけでなく、看護師としての自分の経験を伝えていくこともとても大切だとわかった。
- ・手探りで院外講師を引き受けてきたが、概ね間違っていなかったと安心できた。
- ・講師の話がとても良かった。今後もこのような研修を毎年続けて欲しい。
- ・また、このような講演を期待しています。今後、より理解を深めてお役に立ちたいです。
- ・がん経験者からの話が「がんを自分ごと」として捉えるために大切だと感じるが、直接依頼することは学校も病院も難しい。市のピアサポートに登録している方などの協力が得られるとよいと思う。

### (2) 外部講師派遣事業

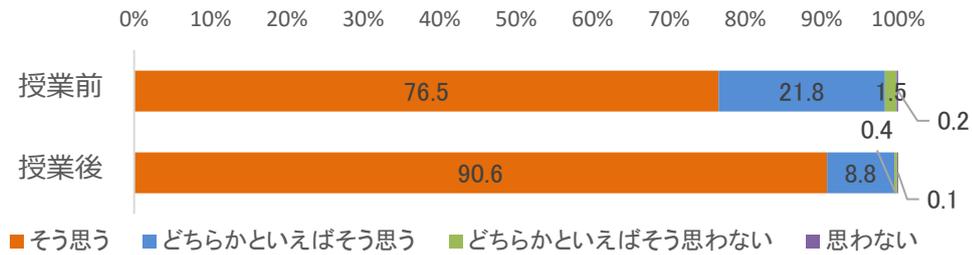
《成 果》

- ・がん教育の前後に実施したアンケートによると、「がんについての学習は重要であり、今後の健康生活に役立つ」と回答した児童生徒が約7割から9割に増えた。
- ・外部講師の指導によりがんに関する知識を身に付け、がんを予防する生活習慣から自分の生活を見直し、健康的な体づくりをしようとする動機付けになった。
- ・外部講師の話は説得力があり、「早期発見」や「定期検診」に対する意識を高めることができた。
- ・知識のみでなく、「限りある命を大切にしようとする気持ち」や「大切な人ががんになったら自分になにができるのか」等、がんを自分ごととして考え、生き方を見つめる機会となった。
- ・学校や地区の教員研修では、外部講師の講話や教員同士の協議により、学校におけるがん教育の在り方や、外部講師との協働・連携について学び、自校でのがん教育実施のイメージを膨らませることができた。

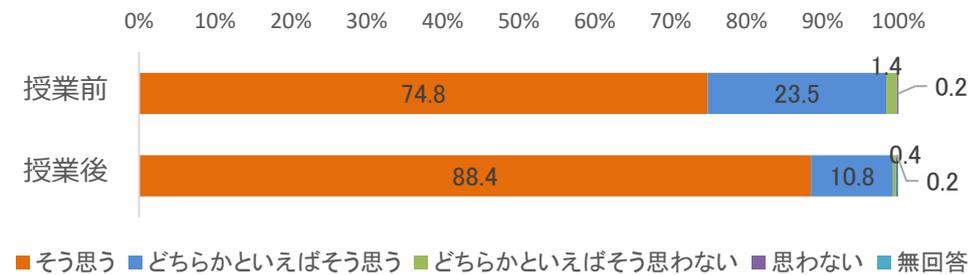
〈がん教育外部講師派遣事業 事前事後アンケート結果より〉

外部講師派遣事業実施校：児童生徒 1424 人

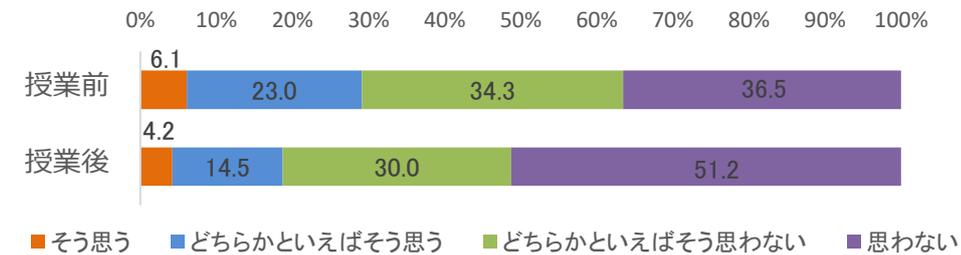
a がんの学習は、健康な生活を送るために重要だ



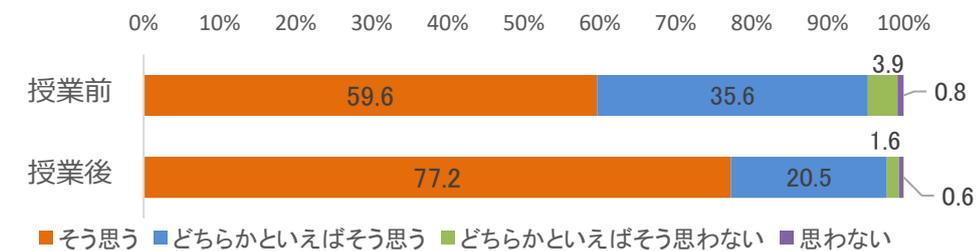
b がんの学習は、健康な生活を送るために役に立つ



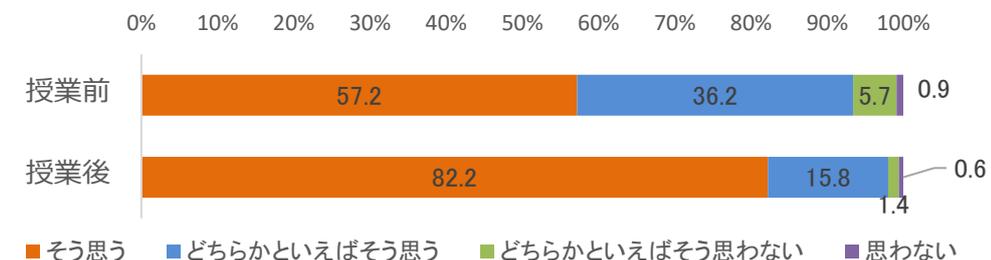
c 自分はがんにならないと思う



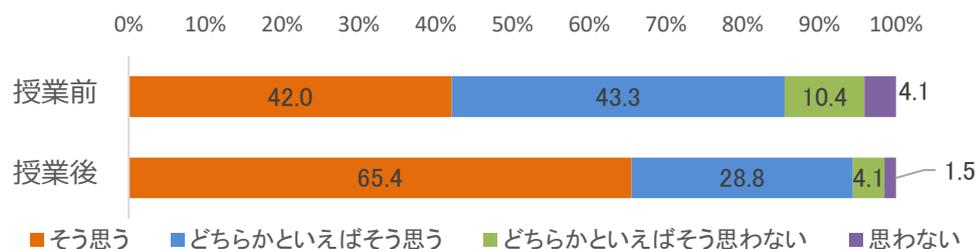
d 日頃から、バランスの良い食事や適度に運動を行うなど健康な体づくりに取り組もうと思う



e がん検診を受けられる年齢になったら、検診を受けようと思う



#### f がん和健康について、まずは身近な家族から語ろうと思う



### 3. 今後の課題及びその取組の方向性（今回の事業により新たに見えた課題など）

#### （1）がん教育研修会

- ・教員の働き方改革が求められる中で新たな研修を立ち上げることはなかなか難しい。また、子供を取り巻く健康課題は山積しているため、既存の研修で毎年「がん」を取り上げることは難しい。外部講師派遣事業を活用した地区レベルでの教員研修や、学校保健関係者以外の研修の場等を利用して開催していく必要がある。
- ・保健体育の教諭が、健康教育の背骨となっている保健体育科の指導の中での「がん」の取り扱いについて学ぶ機会をもち、カリキュラム・マネジメントを意識した学校教育全体でがん教育の推進を図る必要がある。
- ・県保健医療局より「外部講師リスト」掲載の医療関係者やがん患者団体に研修の周知をしていたが、より多くの方に参加していただけるよう周知の方法等改善を図る必要がある。

#### （2）外部講師派遣事業

- ・派遣事業のシステムが分かりづらく、外部講師と学校との連絡調整で誤解が生じた件があったため、わかりやすく、活用しやすい派遣事業の方法を検討していきたい。
- ・新型コロナウイルスの影響により、学校では行事の中止や、外部講師を招聘する教育活動を敬遠する現状があった。外部講師を活用したがん教育の意義やよさ、オンラインを活用した事例等を研修の機会やウェブページに掲載することで、繰り返し発信し、粘り強くこの事業が定着・浸透していくよう取り組んでいきたい。また、学校は、年度途中からの通知では学校行事等に組み入れることが難しいことが多いため、年間行事に組み入れてもらえるように前年度から周知が図れるとよいと考える。

### 4. モデル校以外での取組について（課題や今後整理すべき事項など）

- ・すべての学校が学習指導要領に基づいたがん教育を推進できるように、教員研修の機会をもつ必要がある。文部科学省作成の資料や教材についても今一度周知し、活用を図っていきたい。
- ・「がん教育に取り組む時間の確保」に課題を感じる学校が多いことから、先進校の取組例などを周知し、がん教育を無理なく、どの学校でもあたりまえに行えるよう目指していく必要がある。
- ・外部講師の育成に関する取組を県教育委員会主体で行うことに困難を感じている。県保健医療局やがん患者団体等との連携をさらに図っていく必要がある。